

Passme!

県民とつくる
鳥取県立美術館ができるまでを伝える現状報告マガジン

みんなで
美術館をつくる
取り組みを
続々展開中!



美術館の目指す姿を表す言葉が「OPENNESS!」に決定しました!

県博 NEWS & TOPICS

01

やすおかのぶよし 安岡信義と鳥取近代洋画のパイオニア



鳥取市出身の洋画家・安岡信義(1888~1933年)のはじめてとなる回顧展です。東京美術学校図画師範科を卒業した安岡の、確かな素描力と外光派に由来する豊かな空間表現が結実した作品の数々を紹介。図画教師として奉職した安岡の活動を通じて、地方における近代洋画壇の形成期を見つめます。

会期 2023年2月11日(土・祝)~3月21日(火・祝)
※月曜休館(3月20日を除く)
会場 鳥取県立博物館 第1,2特別展示室
時間 9:00-17:00(入館は16:30まで)
料金 一般700円(団体・前売・大学生・70歳以上は500円)

◀ 安岡信義《自画像》1916年/油彩・板/当館蔵
※作品タイトルは、本展覧会の開催に際して新規に付したものです

02

シリーズ・美術をめぐる場をつくるIV 「感じる・鈴木昭男と宮北裕美のありかた」



サウンド・アーティストの鈴木昭男氏とダンサー、アーティストの宮北裕美氏によるコラボレーション企画。鳥取で現地制作したサウンドとドローイングを用いたインスタレーションを発表します。会期中にはライブ・パフォーマンスも実施予定です。

会期 2023年2月24日(金)~3月21日(火・祝)
※月曜休館(3月20日を除く)
会場 鳥取県立博物館 第3特別展示室
時間 9:00-17:00(入館は16:30まで)
料金 一般180円
(大学生以下・学校教育活動での引率者・障がいのある方、要介護者及びその介護者、70歳以上の方は無料)

◀ 鈴木昭男制作風景(鳥取市千代川河畔)

対話型鑑賞のファシリテーターにチャレンジしてみませんか?

「対話型鑑賞」とは、何人かでひとつの作品をみて、発見や感じたことを語り合い、より深く、楽しく鑑賞を深める手法。そして「ファシリテーター」は、鑑賞の上で欠かすことができないナビゲーター役です。鳥取県立美術館では、小学生の鑑賞活動を充実させるため、より多くのファシリテーターを募集しています!

ご興味がある方はお問い合わせください。登録者には、養成研修 問合せ先 ▶ 鳥取県立博物館 美術振興課
や企画展でのファシリテーションなどを優先的にご案内します。 TEL:0857-26-8045 MAIL:hakubutsukan@pref.tottori.lg.jp

今号の運び人 passer

舞台は 米子本通り商店街
〒683-0062 鳥取県米子市四日市町・紺屋町



開館に向けて
鳥取各地を
白い箱が旅します

米子市でアーティスト・
イン・レジデンスに
取り組む「AIR475」

(左から)
メンバー
白枝伸さん 高増佳子さん
水田美世さん 来間直樹さん

2016年に発足。米子に招致したアーティストの視点で地域資源を発掘し、アートを通してまちの魅力を高める活動を行っている。
<https://air475.com/>

Q アートの魅力って、 どんなところ?

A *予備知識なしでも楽しめますが、作品を語る言葉や背景を理解すると、もっと楽しめる。さらに同じ作品を、繰り返し鑑賞しても新しい気づきがあり、観る人の世代や経験を超えて向き合えることも魅力です。(来間)

Passer's Recommend

1| 東光園
建築家・菊竹清訓が昭和39年に設計した、日本の近代建築を代表する建物。現役使用されている点でも貴重。(高増)

2| 加茂川・中海遊覧船
船頭さんの解説で、かつての商都・米子の姿を知ることができます。「錦海」とも呼ばれる中海の夕日は格別! (水田)

3| 鮎まんじゅう
しっとりもちりした生麩の皮と塩味のある餡の組み合わせが最高! 清月で6~10月に限定販売されます。(白枝)

美術館の開館まであと2年半。建設と並行して、運営の準備も進んでいます。ともにつくる美術館を目指し、県民のみなさんが運営や企画に関わることができるプログラムも構想中。今回はその概要をお伝えします。

「とつとりの未来をつくる」
美術館が生まれます!

【県民参画のプログラム】



PROJECT
教育普及やイベントに
関わってみたい方は.....

企画をつくるプレイヤー

県民と一緒に美術館をつくることを目指し、企画からともに立ち上げる「プロジェクトルーム」の設置を検討しています。美術館の楽しみ方を提案し間口を広げる「美術館をひろく」、学芸員や専門員と協働しながら教育普及事業を行う「美術を深める」の2つの切り口から、さまざまなプログラムを考え、運営していきます。



こんな活動を想定しています! /

- ・ワークショップの企画・運営
- ・対話型鑑賞のファシリテーション
- ・美術館のPRツール作成、オリジナルグッズの開発
- ・大学等教育研究機関との協働活動 など

VOLUNTEER

美術館の運営に
興味がある方は.....

舞台裏を支えるサポーター

美術館は、作品の調査研究やアーカイブ、教育普及などの学芸事業、施設管理や広報などの運営事業を行っています。さまざまな活動を、学芸員や専門員、スタッフと一緒に支えてくれるボランティアを大募集。「こんなことがしたい!」「これならできるかも!」というアイデアを、鳥取県立美術館の魅力創出・発信にぜひ生かしてください。



こんな活動を想定しています! /

- ・県内で滞在制作を行うアーティストの支援
- ・新聞や各種資料の整理とアーカイブ
- ・広報誌の制作や発送の補助
- ・来館者対応 など

MEMBER

アートを身近に
感じたい方は.....

作品にもっと親しめる友の会

より美術館やコレクション作品に親しみたい方は、「友の会」にぜひ登録を。展覧会や作品についての情報発信や、作品鑑賞をさらに深めるための会員向けイベント、各種展覧会チケットの優待などを検討しています。個人はもちろん、企業・団体での登録も可能。鑑賞を通して、ともに美術館の活動を盛り上げてください。



※プログラムの名称は変更になる場合があります

「Pass me!」は令和7年(2025年)春開館予定の鳥取県立美術館ができるまでを発信するフリーペーパーです。県民一人ひとりがプレイヤーとなって、さまざまな人へと「Pass」しながら、ともに鳥取県立美術館をつくっていく足跡を伝えます。
発行日:2022年9月30日 発行元:鳥取県立博物館 編集ディレクション:多田智美(MUESUM) 編集:妹尾実津季(MUESUM)、水田美世 アートディレクション&デザイン:三宅航太郎(MAA)、加藤咲 イラスト:吉鶴かのこ 表紙・今号の運び人撮影:藤田和俊

HISTORY OF MUSEUM



2022 (R4)

2/11

安全祈願祭と起工式を実施

2025年春の完成に向けて、待ちに待った工事が1月にスタート！近年稀に見る大雪で建設地が雪に覆われる日があったものの、当日は現地での式典を無事に執り行うことができました。



安全祈願祭の様子

2/20・3/5

ミュージアムサロン#13、#14を倉吉市と若桜町で開催

県内における文化活動のキーパーソンと対話する、2016年から続く事業です。倉吉会場では、地域文化のリサーチを行う渡辺太さんが、自身の多彩な経歴をもとに、持続可能な集いの場づくりについて話題を展開。若桜会場では、ひやまちさとさんへ、地元のクリエイターと美術館との連携に関する質問が挙がり、県民参画に関するテーマで盛り上がりました。



左 #13 2月20日

倉吉市 倉吉パープルタウン レンタルスペースpeople
渡辺太さん(社会学者・鳥取短期大学国際文化交流学教授)

右 #14 3月5日

八頭郡若桜町 Gallery cafe ふく
ひやまちさとさん(イラストレーター・Gallery cafe ふく主宰)

ひやまちさとさん
(イラストレーター・Gallery cafe ふく主宰)
サロンを通して、計画中の美術館がどのように地域に根づいていくのか期待しつつ、これから自分事としてどう関わっていけるか考えることが大切だと感じました。倉吉に足を運ぶ機会を増やして、ドキドキをワクワクに変えていこうっと。

#14ゲスト



3/13・27

開館まであと3年！
カウントダウンイベントを2本続けて開催

2025年春の開館まであと3年となった3月に、カウントダウンイベントを実施。第1弾は、鳥取で芸術振興や地域のネットワークづくりを行う団体の活動報告と意見交換が行われました。第2弾では、4人のゲストによるユニークな活動紹介、尾崎鳥取県立博物館館長(現:美術振興監)とゲストとのクロストークを実施。美術館運営のヒントを得る貴重な機会となりました。

詳しい内容は、鳥取県立美術館
Webサイトで公開中！

第1弾:2022年5月14日 / 第2弾:2022年5月19日の記事



3月27日に行われた尾崎館長と
ゲストによるクロストークの様子

登壇者



藤原圭佑さん(倉吉商工会議所青年部)
さまざまな団体が美術館を盛り上げる活動に取り組んでいることを知り、また、これから彼らと協力・協働した事業が展開できるかもしれない!と可能性を感じました。

担当者



砂川亜里沙さん(鳥取県立美術館広報担当)
鳥取県立美術館への期待感や関心をあらためて実感し、多くの気づきを得ることができました。それらを運営検討に生かし、引き続き多くの方が「私たちの美術館」と思える場づくりを推進していきます！

登壇いただいたみなさん

3/13 「ココロオドル、鳥取県立美術館のある未来」:倉吉商工会議所青年部、県立美術館と共に歩む中部地区の集い協議会応援団部会・盛り上げ部会、鳥取藝住実行委員会、鳥取R29フォトキャラバン実行委員会、鳥取県建築士会中部支部、美術を楽しむ会
3/27 「開館3年前記念!未来をつくる”美術館フォーラム”」:蔵屋美香さん(横浜美術館館長)、保坂健二朗さん(滋賀県立美術館ディレクター)、中島諒人さん(演出家、鳥取県教育委員)、鈴木潤子さん(@Jディレクター)

3/22

『Pass me!』6号目発行!

美術部の
高校生が
表紙に!



Collection Recommend

フィルム・ノワール 人におすすめの名作

くによしやすお 岡吉康雄(煙草を吸う女)
1929年/油彩・キャンバス



鳥取県美術館整備局
美術振興監
尾崎信一郎 氏
アメリカ映画といえば、なんとと言ってもギャング映画。煙草を手にして艶然と微笑むファム・ファタール(宿命の女)は、リタ・ヘイワースやローレン・バコルが演じる役回りでしょうか。『ブレード・ランナー』に登場するアンドロイド、レイチェルも忘れがたいですね。

※フィルム・ノワール
1940~1950年代後半につくられた、
アメリカ犯罪映画ジャンルのひとつ



解説
岡山に生まれた岡吉康雄は若くしてアメリカに渡り、アート・スチューデント・リーグ・オブ・ニューヨークで絵画を学びました。岡吉は寂寥感と幻想性が共存する独特の画風で知られていますが、常に市井の人々に温かい眼差しを注ぎ、画面は時に一種の社会性を帯びます。大恐慌が発生した年に制作された本作品は国吉らしい佳作と言えるでしょう。

3/25・26

対話型鑑賞の研修会を実施

ファシリテーターの育成などを行う団体・ARDAの三ツ木紀美さんを講師に招聘。対話をしながら作品鑑賞を深めていく「対話型鑑賞」の仕組みと魅力、育まれる力などについてお話しいただきました。

対話型鑑賞のファシリテーターを全力募集中!研修の様子はWebマガジン「totto」にて



当館の講堂で行われた研修会の様子

参加者



高島雄さん(後藤ヶ丘中学校美術科教諭)
参加前は「参加者の自由な発想を話し合うだけ?」「誤った作品の解釈にならないの?」と疑問でした。しかし、研修会に参加して、その不安は払拭!対話型鑑賞は、これからの時代に必要な力が養えること、そして何より、楽しいことにも気づけました。

参加者



秋山光子さん
(対話型鑑賞のファシリテーター登録者)
昨年度まで鳥取短期大学で学んでいて、授業で対話型鑑賞に出会いました。より深く一人ひとりの見方を知ることができたり、若い人との感覚の違いに気づけたりすることに魅力を感じています。ファシリテーションの対象となる県内の小学生たちが、どのような発見や見方をするのか、今からとても楽しみです。



4/30

対話型鑑賞のファシリテーター登録メンバーのためのミーティングを開催

この日までに登録された方、この企画に関心のある方など33名にお集まりいただき、説明やメンバーの自己紹介を実施。参加への想いや美術館に寄せる期待などをお互いに共有しながら、「美術を通じた学び」をサポートする体制づくりをスタートさせました。



秋山光子さん
(対話型鑑賞のファシリテーター登録者)
昨年度まで鳥取短期大学で学んでいて、授業で対話型鑑賞に出会いました。より深く一人ひとりの見方を知ることができたり、若い人との感覚の違いに気づけたりすることに魅力を感じています。ファシリテーションの対象となる県内の小学生たちが、どのような発見や見方をするのか、今からとても楽しみです。

4/21

美術館のロゴ・シンボルマーク公募を開始

“県民立”美術館の象徴として、みんなでロゴ・シンボルマークをつくりたい!との想いから、誰もが参加できる仕組みのもとで公募を実施。3歳~80代の方々から、約1,700点の作品が集まりました!一般投票や最終審査を経て、2023年3月にお披露目する予定です。どのようなロゴ・シンボルマークになるかご注目ください!



5/12 ほか

館内外での教育普及事業を続々実施

さまざまなアートイベントを開催する、恒例の「毎週土曜はアートの日!」はもちろん、館外へ出張して行う「コレクション宅配便」や「学芸員派遣」なども、引き続き県内各所で実施。夏から秋にかけてもスタッフ総出でフル稼働します!



浦安小学校にて学芸員派遣で
行ったワークショップの様子



鳥取看護大学での
「コレクション宅配便」の様子

「HATSUGAスタジオ」は
こんな使い方を予定しています!

- トークイベント「ミュージアムサロン」
- 「毎週土曜はアートの日!」やフリーペーパー『Pass me!』制作に関するワークショップ
- アートフィールドリサーチのトークイベントやワークショップ
- 県民参画プログラム(ボランティアやプロジェクトルームなど)のミーティングや研修

山本亮(鳥取県立博物館美術振興課 専門員)
「美術館がオープンしたら、こんなことができるんだ!」と具体的にイメージできるよう催しを、「HATSUGAスタジオ」で行います。約2年半後に開館が迫る今、より多くの方々との交流を通して、地域・学校連携の素地づくりもどんどん進めたいと思います。《とっとりプラホドリ》にも、ぜひ会いにご来場ください!

担当者



6/10

コミュニティづくりのための拠点
「アートの種まきプロジェクト※ HATSUGAスタジオ」
の設置が決定

美術館が開館するまでの間、アートやアーティストの存在を感じながら多様な交流をつくる拠点を、秋に開設します。県内在住の作家・淀川テクニックの作品《とっとりプラホドリ》を常設するほか、アートに触れるイベントや美術館の県民参画プログラムの研修などを定期的に開催。詳細はWebサイトやSNSで公開していきます。

※美術館の開館に向けて、多様なプログラムを県民とともに取り組む

美術館建設地の
すぐそばに
開設!



〒682-0812 鳥取県倉吉市下田中町870 中瀬ビル1F

2025年春の開館に向けて、
運営の準備も着々と進めています!



Pass me! 08につづく▶▶▶

7/23 ~ 8/7

「移動美術館」を
南部町で開催

年間1~2会場程度、所蔵作品を県内ミュージアム施設などで展示する企画を続けています。今年度は「もっとはんがりましょう。」と題し、多様な版画作品を展示。版画制作のための道具などもあわせて展示し、夏休み中の多くの子どもたちが版画の魅力に触れられる機会をつくりました。

